

# 老健いばらき

第55号

2019.9.1



## 平磯白亜紀層（ひたちなか市）

写真提供：ひたちなか市観光振興課

磯崎海岸から平磯海岸にかけてみられるゴツゴツとした岩礁群の地層です。この地層からはアンモナイトの化石が発見されており、今から約7,500万年前の白亜紀終末期の地層であることが確認されました。また、最近はこの地層から翼竜の肩甲骨も発見され、「ヒタチナカリユウ」と命名されました。茨城県の指定天然記念物にもなっているこの海岸へは毎年、春から秋にかけて磯遊びの場として家族連れでにぎわいます。

いきいき茨城ゆめ国体2019・いきいき茨城ゆめ大会2019のマスコット「いばラッキー」

（ゆめ国体：9月28日～10月8日、ゆめ大会：10月12日～10月14日）

ひたちなか市には茨城国体・ゆめ大会の総合開会式と閉会式がおこなわれる笠松運動公園陸上競技場があります。



発行所／一般社団法人 茨城県介護老人保健施設協会  
発行人／平成園 小柳賢時

編集人／かすみがうら  
編集／鹿野苑  
プラタナスの丘  
シニア健康センターしおさい  
つくばリハビリテーションセンター

大場 正二  
熊坂 裕吾  
大曾根 卓  
児島 強  
市原 健一



会長 挨拶

一般社団法人  
茨城県介護老人保健施設協会  
会長 小柳 賢時

残暑厳しき折ですが、会員の皆様方におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

消費税が10%にアップされると、介護職員の特定処遇改善手当と消費税に対する介護報酬の改正が行われます。今回の特定処遇改善手当でアップした分は、介護職員以外のその他の職種への配分も可能となります。配分方法は、各施設の状況よりの判断となりますが、悩む判断となりそうです。また、介護福祉士として10年以上の経験・技能のあるうちの一人は賞金の改善が月額8万円のアップ又は年収が440万円以上となるものが挙げられております。調べてみますと、施設においては年収440万円以上の介護職員が既に数名おられるところもあります。老健に長く働いてこられた方で感謝申し上げます。以前よりは給与面での改善はされておりますが、以前が低すぎたということでありましょう。介護老人福祉施設・サ高住・高齢者住宅など介護関連施設はごも人材不足であります。今後は、介護機能がマヒすることも危惧されます。老健は地域包括ケアにおいて中心的な役割を担い地域に貢献することが求められる施設です。介護の仕事に希望を持って入ってこられた方の理念にもそう働く場所です。その方々のモチベーションを下げぬよう、今後老健協会として働き方や給与面の改善に力を合わせていきたいと思います。

テーション病院・施設協会より話がありました。今後のリハビリテーションの普及促進のためにも、老健で働く皆様方におかれましても入会のご協力を頂きますよう、宜しくお願ひします。

ご挨拶

一般社団法人

茨城県介護老人保健施設協会

理事 大曾根 卓

おかげさまでプラタナスの丘は昨年で開所10年を迎えることができました。元々私どもは無床診療所を運営する医療法人で、当初は長年通院いただいた方々に少しでも恩返しさせていたたくことを目標としておりました。

しかし、実際はより多くのニーズがあったことに気づかされる毎日でした。地域はもちらん遠方の方々にもご利用いただいております。地理的に或いは心理的に遠いかもしれない当施設に大切なご家族を託していただくことは、私どもスタッフにとって喜びでありやり甲斐であります。時にはご期待に答えられないケースも経験し意志疎通の大切さは日々感じております。

毎週一回全ての利用者様を診察しております。急な変化の遭遇は少なくなっております。それでも年輪を重ねてこられた皆様ですから些細な症状を見逃すと重大な事態となってしまう。緊張感を持って仕事に当たることが求められます。その緊張をほぐしてくださるのは、やはり利用者の方のお元氣な姿と笑顔であります。

〇様は開所当時から利用いただいている明るい男性です。ご自身が経営する社会福祉法

人の理事長を続けておられます。お部屋に毎週水曜日にお伺いすると囲碁のソフトでパソコン相手に一局打っておられるか、または書類に目を通しておられるか。いつも笑顔で苦勞様ですとお声をかけてくださいます。

3割が高齢者という状況にあります。このため、県では、人生100年時代を見据え、高齢者一人ひとりが健康でいきいきと活躍できる社会の実現を目指し、昨年3月に、平成30年度からの3年間を計画期間とする「第7期いばらき高齢者プラン21」を策定しております。この計画では、団塊の世代全てが75歳以上となる2025年を見据え、高齢者が住み慣れた地域で、可能な限り暮らし続けられる「地域包括ケアシステム」の構築を施策の大きな柱に掲げております。

時は待つてくれません。残酷なまでに私たちが多くの大切なものを奪っていきます。しかし私どもは優秀なスタッフに恵まれました。失ってしまった大切なものを彼らは実に優しく取り戻してくれま。老健施設は砂漠に残されたオアシスのように今日も輝いています。

県では、今年度各種の取組をさらに推進するため、組織改編を行いました。介護保険制度などを所管する「地域ケア推進課」に、「健康長寿福祉課」が所管していた「健康増進業務」を移管し、両課は今年度から「健康・地域ケア推進課」、「長寿福祉推進課」に改編されました。長寿福祉推進課では、引き続き介護保険施設等の整備や介護保険事業所の指導・監査などを行ってまいります。

ご挨拶

茨城県保健福祉部

長寿福祉推進課

課長 森田 達也

今年の4月に長寿福祉推進課長に就任いたしました森田達也でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

茨城県介護老人保健施設協会会員の皆様方には、日頃から高齢者保健福祉の向上並びに介護保険制度の円滑な運営に多大なご尽力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

我が国では、人口減少と少子高齢化が急速に進行し、本県におきましても、今年4月1日現在の高齢化率は29.2%と、人口の約

第7期いばらき高齢者プラン21に基づきまして、急速に進む高齢化に対応した総合的な施策の推進により一層努めてまいります。

結びに、今後とも本県の高齢者保健福祉行政の推進にご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。貴協会の益々のご発展をご祈念いたしまして、挨拶いたします。

第26回 研究発表会

優秀演題賞受賞にあたって



介護老人保健施設 平成園  
介護士 大坪 光太

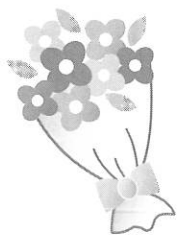
この度は、優秀演題賞として表彰して頂き、誠にありがとうございます。

今回事例研究を行なうにあたり、最初に考えたのは「楽しい事をした」でした。私が考える福祉は、縁があつて出会えた利用者様が私たちと会えて本当に良かったと思つて頂ける事や、在宅に帰られた際にあそこで過ごした時間は楽しいひと時だったと感じて頂ける事です。要は利用者様の思い出の中に残るような対応こそが、この業界で言う「仕事」なんだと思ひます。では、思い出に残つてほしいものは？と考えた時に、真っ先に思ひ浮かんだのが「笑顔の瞬間」でした。

人手不足などニュースなどで言われていますが、正直否定はできません。当然つらい時もありますし、疲れることもあります。ただ、改めて互いに笑つていられる瞬間を作り、大変な中にも「楽しい事」を見い出せたのは、今回の事例研究での成果だと思つています。

どうせ辛いという口癖のだったら、同じくらい楽しんで笑つていれればいいと思ひます。忘れがちだった、大切な事を再確認して頂けるきっかけになれば幸いです。

あと、笑つているとモテますよ。これ重要ですね。



第26回 研究発表会

優秀演題賞受賞にあたって



介護老人保健施設  
プロスペクトガーデンひたちなか  
アートセラピスト 生江 教代

この度は、第26回茨城県介護老人保健施設協会研究発表会において、優秀演題賞を頂き誠にありがとうございます。今回の受賞は、自分ひとりの力で得たものではなく、関わりの方々の力から頂いてできた成果だと考えています。また、頂いた賞状を施設に展示したところ、施設利用のご利用者様からも、祝福の声をかけて頂き受賞できたのだなと実感しております。

4年前、私が初めて利用者様の制作風景を見学した際、介護という現場においてこれほどまでに芸術が活かされ、必要とされているのだという現状に大変驚きました。その後、アートセラピストとして介護の現場からご利用者様のこの素晴らしい作品や、生き生きとした様子を広く伝える事が私の職務だと強く感じ、今回の発表の演題になった「作品展覧会」の構想へと発展していきました。

作品展覧会後、今まで関わりのなかったご利用者様からも「私もあんなことできるかしら？」といったお声を頂き、興味や意欲を引き出し、新たな制作活動を促すきっかけになっていました。また、ご利用様同士は距離を縮め、施設で新たな人間関係を築き、活動の輪が広がっています。アートセラピーは、普及に向けた活動が課題となっていますが、「心のリハビリ」として今後「作品展覧会」を通して様々な人や社会を繋げていきたいと感じております。

第26回 研究発表会

優秀演題賞受賞にあたって



介護老人保健施設 かすみぐら  
作業療法士 新堀 ひとみ

当施設では、認知症短期集中リハビリテーション加算を算定しています。入所時に利用者の特性や入所する前の生活状況を把握するために、「興味・関心チェックシート」の聞き取りを行い、その内容をもとにしたリハビリテーションプログラムの立案をし、実施しています。入所時より慣れ親しんだ活動や元の生活に近い環境、本人の興味のある活動をプログラムに設定することで、本人の自己効力感や成功体験に繋げることができるようではないかと思われまふ。今回、発表するにあたり、理学療法士・作業療法士が定期的に認知症の評価を行ってきたこと、また介護士や介護支援専門員と協力しながら、利用者の生活がより良いものとなるよう活動の提供や環境設定を行ってきました。多職種と協働できたことが、今回の結果に繋がったのではないかとと思ひます。認知症では生活環境すべてにおいて、不快刺激が症状の悪化に繋がります。

多職種と情報を共有することで、24時間の生活における不快要素や増悪要因の排除に努めることができたと思われまふ。

今後、利用者がより良く落ち着いた生活を送れるよう支援を継続し、入所早期からの環境づくりができるよう、理学療法士や作業療法士、多職種と一緒に取り組んでいく必要があるかと考えまふ。そのために、作業療法士として創意工夫をし、利用者様や多職種へ質の高い提案をしていけるよう努めていきたいと思ひまふ。

第26回 研究発表会

優秀演題賞受賞にあたって



介護老人保健施設 春秋園  
支援相談員・介護支援専門員  
中山 圭一

この度は、優秀演題賞に選んで頂きありがとうございます。

研究発表のテーマは「入所者の身体拘束の解除」。この取組に至ったのは、当施設の身体拘束の現状に「切迫性や一時性の要件に果たして該当しているのか？」と疑念を持つケースが少なからずあつたからです。当施設では、身体拘束をしている入所者に対し「身体拘束の実施率」(以下、実施率)という数値目標を設定しました。(当施設に当てはめた数式は身体拘束をした日数(月)÷総入所者数(月)×100です)平成29年1月から平成30年6月までの間、身体拘束の入所者17件を対象としました。当時の実施率は全国平均4.5前後に対し7.47でした。毎月、検討会で実施率を報告し、少しでも解除できる日が作れないか、1日の中でも解除できる時間を設けられないかという視点で取り組みました。

結果、実施率は平成29上半期が5.26、下半期が2.06、平成30上半期が2.24と徐々に改善が見られました。また、17件中10件が身体拘束の解除に繋がりました。

考察すると、身体拘束に数値目標を設けた結果が可視化されたこと、また「少しずつやれる範囲」という介護現場に無理のない範囲で取り組めたことが良かったのかもしれない。

2019年7月現在、身体拘束をしている入所者は2名、身体拘束の実施率は2.04です。実施率を用いた取り組みは継続中です。しかし、数字はそれなりに維持できても身体拘束ゼロには至っておりません。身体拘束3要件における「切迫性」の捉え方についてスタッフ間の温度差や解釈の違いを感じることがもまだにあります。

引き続き取り組みを継続していくことが大切ですし、身体拘束のグレイゾーンや不適切ケアを減らす努力をしていくことも今後の課題だと思ひまふ。

### 職種別専門委員会 委員長挨拶

#### リハビリテーション専門委員会

みがわ

笠原 鉄聡

今年度は年3回の研修会とは別枠で老健協会のご協力のもと、大田仁史先生を講師に「介護予防のための集団（一対多）対応型リハ専門職指導者養成研修」をみがわを会場として実施中です。2040年を展望すると、老健セラピストは従来の「一対一」の他に「一対多」への対応も目指していく必要があります。心身障害者は集団の中にある経験が社会参加に必要なプロセスとなり、心理的側面に配慮して集団を動かせることも重要な役割になってくるからです。

今後とも様々な企画を行っていただけるよう、当委員会の運営にご協力いただきますようお願い申し上げます。

#### 看護・介護専門委員会

田尻ケ丘ヘルシケア

塚田 尚樹

引き続き二期目の看護・介護専門委員会にて委員長を務めさせて頂くことになりました。介護老人保健施設 田尻ケ丘ヘルシケアの塚田尚樹です。今年度も委員の皆様と協力しながら、精一杯努めていきたいと思っております。今年も、年2回の研修会を予定し、第1回研修会は、意見交換会を兼ねたグループワークを実施致しました。多くの方に参加

して頂き、様々な意見のもと充実した研修会を行えたと思います。次回の研修会は10月11日に前回好評だった、認知機能の低下を予防するプログラムである、シナプソロジーの研修会を予定しています。今後当委員会の運営にご協力のほどよろしくお願い致します。

#### 支援相談員専門委員会

かすみがつら

下河辺 敦子

昨年度に引き続き、支援相談員専門委員会の委員長を務めさせて頂きます。老健かすみがつらの下河辺敦子です。皆様のご協力を頂きながら精いっぱい務めさせて頂きますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

今年度も例年同様、2回の研修会を予定しております。6月に実施したグループワークの研修会には今年もたくさんの方に参加して頂き、日頃、業務を行う中での疑問点や悩みなどをお互いに情報交換することができ、より有意義な時間になりました。

2回目は9月13日に全老健の社会保障制度委員会介護報酬部会長の漆間伸之様をお迎えして、介護報酬に関する研修会を予定しております。昨年の介護報酬改定から1年が過ぎ、さらなる高みを目指すきっかけになればと思っております。皆様のご参加をお待ちしております。

#### 事務専門委員会

鹿野 苑

山本 伸一

今年度、事務専門委員会の委員長を務めさせて頂けます。介護老人保健施設 鹿野苑の山本伸一です。微力ではございますが、委員長としての役割を果たせるよう尽力して参ります。

当委員会では今年度2回の研修会を開催致します。第1回目は、7月に接遇研修を開催いたしました。多くの方々にご参加いただき、有意義な研修を執り行うことができました。誠にありがとうございました。

また、第2回目は、11月11日に情報交換会の開催を予定しております。他施設の状況等を知る貴重な機会となります。多くの方のご参加をお待ちしておりますので宜しくお願い致します。

#### 栄養専門委員会

かすみがつら

山崎 真美子

令和元年5月22日にザ・ヒロサワ・シティ会館で開催した第1回研修会では、健康長寿科学栄養研究所代表理事の麻植有希子先生に「介護報酬算定のための栄養ケア」を、キッセイ薬品工業株式会社の田中紀行氏に「高齢者の水分補給」についてご講演頂き、施設の現状や高齢者における様々な問題点等、資料を基に分かりやすくお話し頂き、とても有意義な研修会を行うことが出来ました。

また、第2回研修会を、言語聴覚士を講師に迎え10月17日に健康プラザにて開催することになりました。皆様から要望の多かった嚥下機能の評価方法や、個人の状態に適した食形態の選定方法等、経口維持・移行加算の算定に結び付けられるような内容を依頼しております。ご多忙とは存じますが、専門職の知識や技術を高める場として、多くの方のご参加をお待ちしております。

令和元年度  
一般社団法人茨城県介護老人保健施設協会  
事業計画

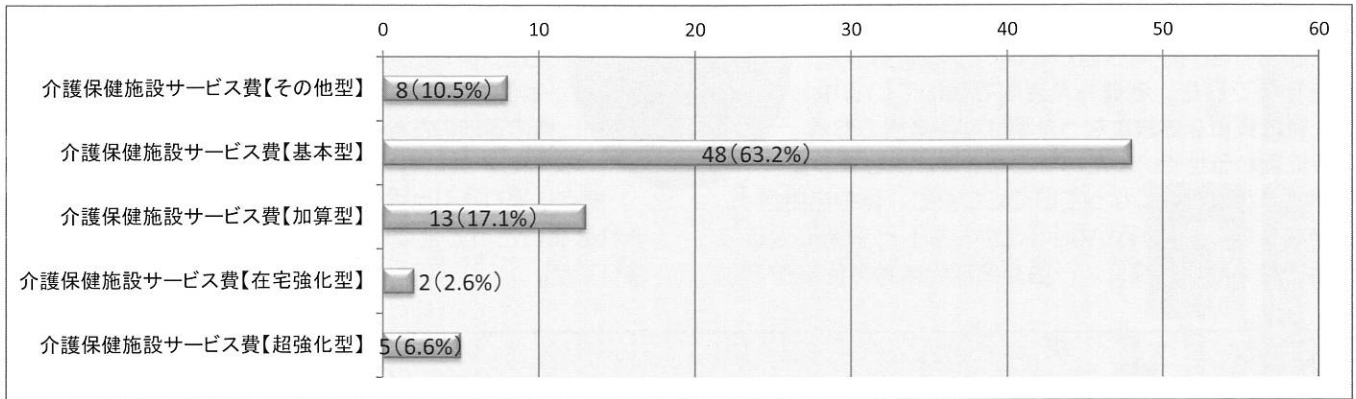
3月	第27回研究発表会茨城県功労者・協会功労者・永年勤続者表彰（4日） 職種別専門委員会（予定） 定例理事会（予定）
2月	老健いばらき第56号発行（1日予定） リハビリ専門委員会（予定）
1月	予定なし
12月	学術委員会研究発表会担当者会議（予定） 県委託事業「次老健会員施設職員対象権利擁護推進員養成研修」（5日）
11月	事務専門委員会 座談会（11日） 広報委員会「老健いばらき」担当者会議定例理事会（29日）
10月	リハ専門職に求められるチームマネージャメント能力 ～心理・行動・環境の視点からの取り組みについて～（18日）
9月	老健いばらき第55号発行（1日） 看護・介護専門委員会 シナプソロジー（11日） 栄養専門委員会（17日） リハビリ専門委員会
8月	学術委員会 研究発表会担当者会議（19日）
7月	支援相談員専門委員会 報謝改定に伴う対策について（13日） 県委託事業「次老健会員施設職員対象権利擁護推進員養成研修」（2日・10日・27日） 老健いばらき第55号発行（1日）
6月	生活期における言語聴覚士の役割（7日） 支援相談員専門委員会 グループワーク（14日） 看護・介護専門委員会 意見交換会（28日）
5月	栄養専門委員会 介護報酬算定のための栄養ケアについて 高齢者の水分補給について（22日） 定時社員総会・定例理事会（31日）



## 介護給付に関する各種加算に関するアンケート調査結果

- ★調査対象 ⇒茨城県介護老人保健施設協会会員107施設（平成30年6月8日現在）  
⇒平成30年6月8日現在にもとづいて調査
- ★回収総数 ⇒76施設（回収率71.7%）

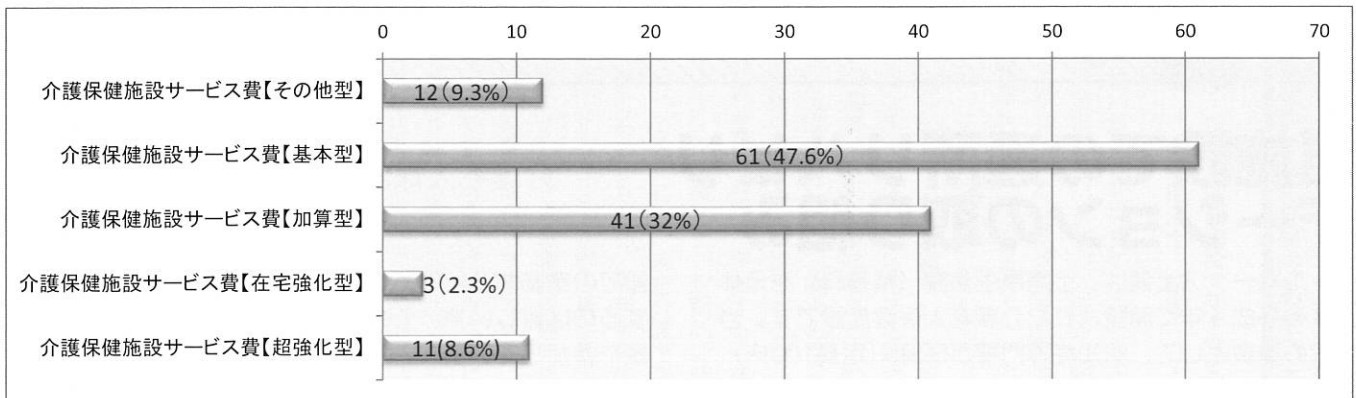
### 平成30年度 介護保健施設サービス（基本部分）



## 介護給付に関する各種加算に関するアンケート調査結果

- ★調査対象 ⇒茨城県長寿福祉課より回答、県内128施設累計（令和元年7月1日現在）

### 令和元年度 介護保健施設サービス（基本部分）



■平成30年 介護保健施設サービス（基本部分）	
項目	施設数
介護保健施設サービス費【その他型】	8
介護保健施設サービス費【基本型】	48
介護保健施設サービス費【加算型】	13
介護保健施設サービス費【在宅強化型】	2
介護保健施設サービス費【超強化型】	5
回答施設合計数	76

■令和元年 介護保健施設サービス（基本部分）	
項目	施設数
介護保健施設サービス費【その他型】	12
介護保健施設サービス費【基本型】	61
介護保健施設サービス費【加算型】	41
介護保健施設サービス費【在宅強化型】	3
介護保健施設サービス費【超強化型】	11
回答施設合計数	128

## 私の新しい歩き方

介護老人保健施設 もえぎ野  
介護福祉士 近藤 貴志

介護職という道を志して、早6年になりました。言われた事を言われたままやっていた新人の頃に比べ、経験や知識も増え、5年目には実務者研修を経て目標だった介護福祉士の資格も取得できました。

振り返れば、内部・外部問わずに研修へ参加してみたり、日々の業務の中で得られたものを試してみたりと自分自身の知識と技術を高めることで、利用者様や仲間へ返していこうと頑張っていた6年でした。老健もえぎ野で働いている中で、特に貴重な体験となった事は利用者様のお看取りに関わらせていただいたことです。少しずつ食事や水分が取れなくなっていくにつれて、体の自由が利かなくなり、「わるいな」「ごめんな」と介助に入るたび話される利用者様に、一番必要なのは身体的なケア以



上に心に寄り添うことだと教わりました。しかし、介護福祉士という一つの目標を達成してから、これから自分が何をやるべきなのか、何が出来るのかと考えることも多くなり、意気揚々と良いと思うことをやってみても、空回りしてしまうことも多くなりました。そんな苦しい時に私を救ってくれたのは、利用者様や「大丈夫か？」と声をかけてくれた仲間です。今やるべきことは、自分本位ではなく利用者様の声に耳を傾け、その目標の達成のために何が出来るのかを仲間と意見を交わし、共に考えていくことです。「介護職として原点に戻り、引っ張るのではなく、共に歩いていく。」それは私にとって全く新しい歩き方であり、挑戦のはじまりです。



## 当施設での通所リハビリテーションの取り組み

介護老人保健施設 シルバーケア土浦  
作業療法士 辻田 由香

シルバーケア土浦は、土浦厚生病院（精神科）を母体とする平成9年に開設された介護老人保健施設です。当施設の特徴として、認知症専門棟が50床（定員100床）あります。少しずつではありますが、地域の皆様にも認知症ケアといえは、「シルバーケア土浦」という認識をもっていただけるようになってきました。

わたしたちリハビリ職員は、理学療法士1名、作業療法士4名で入所・短期入所・通所リハビリテーションを兼務しております。他の施設に比べると決して多くはない人数ですが、多職種協働や業務の効率化を図りながら勤務しております。

当施設の通所リハビリテーション（定員20名）では、リハビリテーションケアマネジメントⅢ（以下 リハマネⅢ）を算定しているご利用者様が登録者の約7割を占めております。3ヶ月ごと（算定から6ヶ月は1ヶ月ごと）にリハビリ会議を開催し、ご利用者様やご家族様、多職種で情報の共有をしております。リハマネⅢは、医師の関与は必須であります。ただ、医師は施



設での業務も多忙であり、自宅でのリハビリ会議に出席するのは難しい為、その時にはテレビ電話でリハビリ会議に参加しています。このように医師が関与することによりご利用者様やご家族様がより安心して在宅生活が送れるように支援しているのです。

また、リハマネⅢを算定しているご利用者様には定期的に外出支援を実施し、活動・参加に焦点を当て関わっております。平成27年度に新設された生活行為向上リハビリテーション実施加算ですが、当施設でも半分以上のリハビリ職員が算定要件の研修に行きました。今のところマンパワーの問題や通所リハビリテーション終了後の生活イメージを持ってないご利用者様がが多く、生活行為向上リハビリテーション実施加算は算定していません。しかし、ご利用者様が目標を達成し、通所リハビリテーション終了を目指していけるようにリハビリ職員だけでなく多職種と連携しながら取り組んでいきたいと考えております。

施

設

紹

介

介護老人保健施設『プエブロ稲敷』は平成21年6月1日に開設し、本年度令和元年6月1日で、10周年を迎える事ができました。

入所定員100名（ユニット型個室20名・一般棟40名・認知専門棟40名）通所リハビリ定員38名の施設です。平成27年6月に圏央道が開通し、首都圏・千葉県内からのアクセスが可能となり、首都圏からの利用者様も受け入れております。

『常に利用者本人とご家族様の立場を考え多彩なる関連施設と福祉の連携を図りつつより良い介護を提供すること』を理念に、地域の皆様・御利用者様・御家族様に支えて頂きながら、各専門職が一致団結して、さらに飛躍していけるよう日々努めていきたいと思っております。

医療ニーズの高い経管栄養（胃ろう・経管栄養）や重度の認知症の利用者様も積極的に受け入れ、個々のニーズに合った介護を提供すべく、日々努力しています。又、医療法人美湖会 美浦中央病院が母体となり、利用者様の病状に応じて速やかに対応する事が出来、利用者様やご家族様に、安心した医療を提供する事ができるシステムになっております。

その他には、レクリエーションの一貫として、利用者様の嗜好に合わせた昼食作りや、外出レク・流しそうめん・納涼祭なども実地しており、利用者様からも大変好評をいただいております。

居宅介護支援事業所が同施設内に運営しております。通所リハビリと連携をとり、在宅での生活支援を出来る体制を整えております。長時間の滞在が不可能な方、リハビリだけを受けたい方等、医療保険から介護保険のリハビリへの移行を円滑にし、要望に沿ったリハビリを継ぎ目なく一貫して受け入れられる事を目的としたサービス提供も行っています。

当法人には、ゴーエン美浦（美浦村）・アイケア（守谷市）・ウイケア（石岡市）・ピオラセア（龍ヶ崎市）があり、さまざまな地域に密着した医療・介護支援を行っております。それぞれの施設とも連携を取る事でより良い介護サービスを提供していけるよう、日々努力しております。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い致します。



医療法人 美湖会  
介護老人保健施設 プエブロ稲敷

茨城県稲敷市狸穴11  
TEL：0297-87-7511  
FAX：0297-87-7588



ルーエしもつま (下妻市)



● “れいわ” ひまわり畑

デイケア御利用者様が皆さんで協力して作り上げました。一人一人の手で、お花紙を丸めたり、ねじったりして、一つ一つひまわりのお花を完成させていきました。令和の時代が、ひまわりの花のように凛とした中にも明るく優しく微笑みかけるように、元気で思いやりある時代でありますようお願いをこめて手掛けました。

プロスペクトガーデンひたちなか (ひたちなか市)



●真珠の耳飾りの乙女

デイケアご利用の男性がお一人で制作された作品です。オランダの画家ヨハネス・フェルメールの代表作を、縦170cm×横140cmの貼り絵で表現していただきました。寄付されたネクタイを主な材料としています。陰影の表現方法に大変苦労され、制作期間は約1年を要しました。作品を近くで鑑賞して頂くと布の貼り方や柄を上手く作品に取り入れていることが分かります。細部まで工夫が凝らされたこだわりの作品です。

みんな

ノア (高萩市)



●藤の花

通所リハビリの御利用者様とスタッフが協力して、紙テープと折り紙を使って藤の花を作りました。180本を超える藤の花は、フローアを彩る素敵なお花となり、華やかな雰囲気を感じさせてくれています。

小美玉敬愛の杜 (小美玉市)



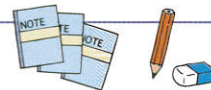
●おばあちゃんのハンドメイド

「もうできない！」なんて思っている利用者様の残存機能を掘り起こす為手芸クラブを発足。今では腕自慢のおばあちゃん達が集まり、巾着や帽子、保育園児のおもちゃを作って届けています。おばあちゃん達の「生きがい」となったクラブ活動です。

のた場

みんなの広場に掲載する作品を募集しております。  
お気軽に下記電話番号までお問い合わせください。

— 編集後記 —



いよいよ開幕間近となった第74回国民体育大会(茨城ゆめ国体)、第19回全国障害者スポーツ大会(茨城ゆめ大会)。本県での国体開催は昭和49年の第29回大会以来、45年ぶりです。スローガンは「翔べ 羽ばたけ そして未来へ」。37の正式競技、5つの公開競技(綱引など)、1つの特別競技(高校野球)で、競われます。また、ドッジボールなど31のデモンストレーションスポーツが繰り広げられます。地元で開催されるスポーツの祭典を大いに楽しむとともに本県勢の活躍に期待したいところです。

一般社団法人 茨城県介護老人保健施設協会

水戸事務局  
水戸市千波町1918 (月・金9:00~13:00)  
TEL. 029-291-5376 FAX. 029-291-6057

平成園  
古河市旭町1-17-39 (左記以外時間帯対応)  
TEL. 0280-31-5998 FAX. 0280-31-7767